



環境に配慮したモノづくり

製造過程での省資源化・CO₂排出量削減等の環境負荷低減に取り組み、地球にやさしいシール製品づくりを推進するとともに、良品しかできない工程・工場を目指します。



環境方針

基本理念

当社は、環境保護を経営の重要課題として位置づけ、開発・設計・購買・生産・物流・販売・廃棄までの製品のライフサイクル全段階にわたって、社是(正道、和、独創、安全)の精神で「地球にやさしい事業活動」をグループ全体で取り組みます。

行動指針

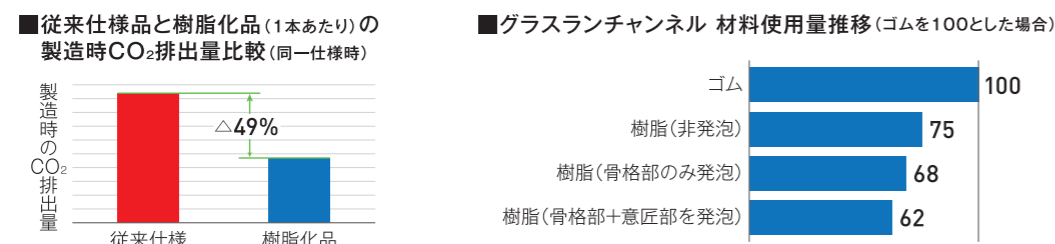
- ① 法令遵守
環境関連の関係法規制等、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守します。
- ② 環境に配慮したモノづくり
省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物の削減、環境負荷物質(有害化学物質)の使用抑制及び汚染の防止に取り組み、その継続的改善による環境保護に努めます。
- ③ 社内啓発活動
全従業員の環境に関する法律遵守及び環境への意識向上を図るため、環境教育を継続的に実施し、全社的な環境保護活動を推進します。

製品を通じた環境への取り組み

製造過程での省資源化

樹脂化の拡大展開

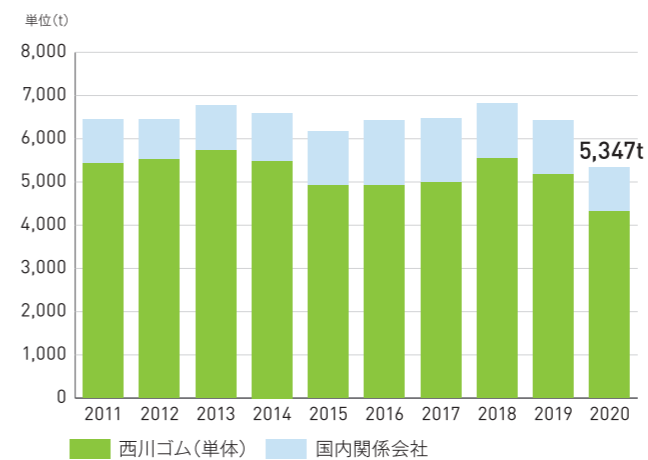
当社の主戦場であるゴムシール分野では、環境的側面から「樹脂化」がトレンドの一つとなっています。
当社が製品材料として扱っている熱可塑性エラストマー(TPE:Thermo Plastic Elastomer)は、常温でゴムのような弾性を有し、高温ではプラスチックのように溶融するという特性があります。
ゴムの場合、「加硫」と呼ばれる、硫黄等を加えて加熱する工程が一般的に必要ですが、樹脂の場合はそれが不要となるため、製造時に使用するエネルギー量を削減することができます。
また加工時に出る切れ端を溶融させて再び製品として再生できるなど、マテリアルリサイクルが容易となり、省資源化や二酸化炭素の削減に寄与することができます。
加えて当社では、コアテクノロジーの一つである発泡技術を樹脂に適用させることで、さらなる省資源化を進めてきました。自動車のドアガラスをスムーズに昇降させる役割を担っている「グラスランチャンネル」では、難易度の高い意匠部(取り付けた際に外から見える部分)まで発泡部位を拡げることに成功し、ゴムを材料とした時と比較して3割以上の材料使用量低減を達成しています。



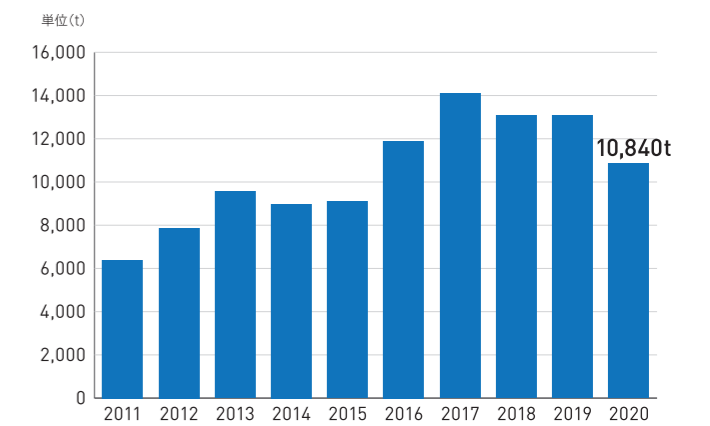
産業廃棄物の削減

西川ゴムグループ2025年中長期経営計画のESG目標として「産業廃棄物ゼロへの挑戦」を掲げ、「環境汚染の原因となる産業廃棄物の削減に取り組む」、「生産にともなうロス廃棄物(バリ屑等)を最小化する」の考えのもとで活動を進めています。引き続き、歩留の向上、不良率の低減等、廃棄物発生抑制に取り組み、産業廃棄物の削減とともに、リサイクル率の維持・向上を推進してまいります。

■西川ゴム+国内関係会社 産業廃棄物量の推移



■海外関係会社 産業廃棄物量の推移



環境負荷物質の管理

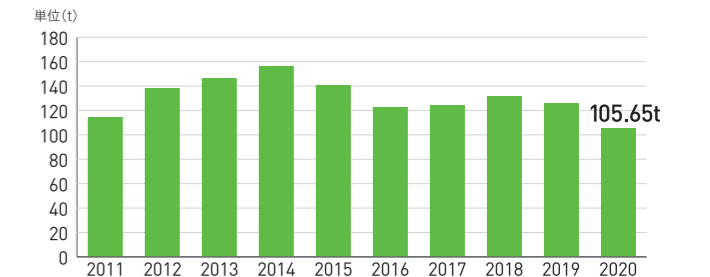
当社のESG目標である「環境負荷物質管理」として、国内はもちろんグローバル管理を念頭に、各国の環境法令を確実に認知し、グループ全体での準拠を推進します。環境負荷物質については使用基準を設定し、材料や製品開発時、物品購入時、加工時等の各段階で取引先を含み全社で管理しています。

■環境負荷物質の移動量・排出量の状況(単体)

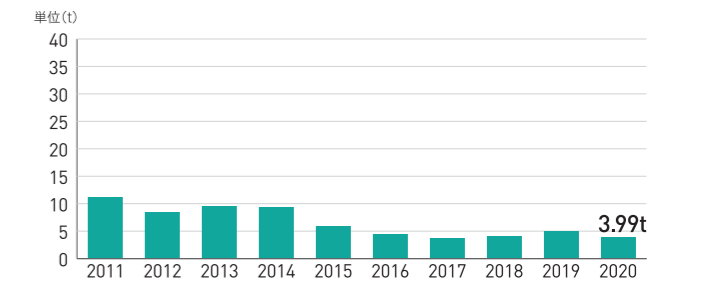
2020年度実績 <年間取扱量が1t以上のPRTR法該当化学物質で集計> <単位:t/年>

政令番号	CAS No.	指定化学物質	移動量(廃棄物)	排出量		
				大気	水質	土壌
42	96-45-7	2-イミダゾリジンチオン	1.10	-	-	-
268	137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド	0.61	-	-	-
372	95-31-8	ビス(水素化ナフチル)ジメチルアンモニウムクロリド N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェアミン	0.20	-	-	-
452	149-30-4	2-メルカプトンベンゾチアゾール	2.06	-	-	-
438	1321-94-4	メチルナフタレン	-	0.02	-	-
合計			3.97	0.02	-	-

■PRTR対象物質の「取扱量」推移(単体)



■PRTR対象物質の「移動量+排出量」推移(単体)



※その他環境に関するデータの詳細等についてはP23以降をご覧ください。



コア技術で探求する快適空間

環境に寄与する技術を積極的に用いて、形状・素材・工法・環境など多面的に
シール&フォームエンジニアリングを深耕し、クルマや住宅の室内環境の快適・静寂・安心を実現します。



シール&フォームエンジニアリングを支えるコア技術 “発泡・連続押出・止水設計”

「己の立てる所を深く掘れ そこに必ず泉あらん」。
この経営理念の言葉にあるように、当社はコア技術である“発泡・連続押出・止水設計”を己の立てる所とらえて事業を展開しています。そのメイン製品がウェザーストリップ。これは単にドア周りの止水をするだけでなくさまざまな役割を合わせ持つ部品で、やすらぎの車室内空間を支える縁の下の力持ち的な存在です。そして、当社はこの立ち位置を深く掘りながら、その活動の間口が自然と広がり、それが事業拡大につながるよう日々活動をしています。



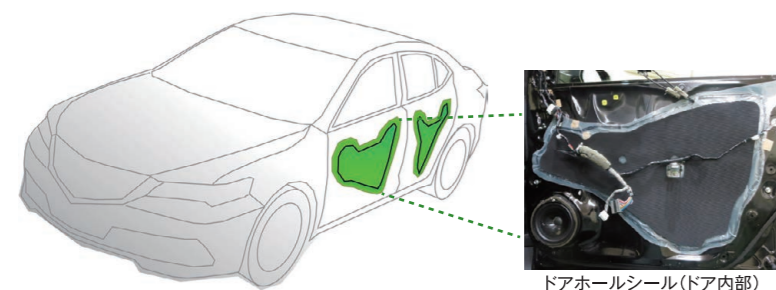
さらなる高発泡化で静粛性アップ “ドア内部防音・防水材ドアホールシール”

ドアホールシールは、ドアトリム内部のドアパネルに組立作業目的や軽量化目的のために空けられたサービスホールを塞いで雨水や騒音の進入を防ぐ平面状シール材です。既定の厚さスペースで効果を確実に出すことが必要で、ポリエチレン製や不織布製のものもありますが、当社はこれを一貫してスポンジゴムをメインに構成し、数々の登録特許もここに織り込んでいます。また、紐状のウェザーストリップと違い、幅広平面状の形態を連続押出するには多くのノウハウも必要とされます。

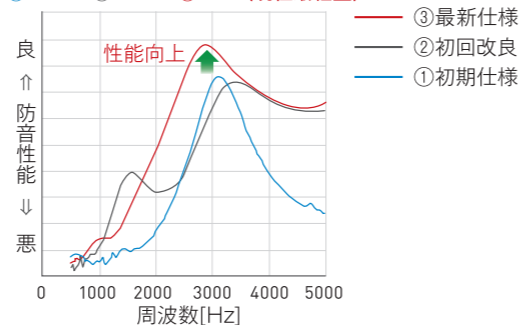
2021年度は、基本開発を終えてその後に車両適用設計をした新タイプを、まず米国を皮切りに上市いたしました。
この新タイプは、従来品からさらに低比重・高発泡・最適形状化させたもので（現在、比重0.06で最軽量）、発泡&連続押出をコア技術として深耕させる当社技術の真骨頂というべき新開発品です。これにより従来より広い音域での静粛性向上を達成し、加えてオーディオ低音領域でのビビり音(*)も防止しています。

今後、これを日本国内を含めてさらにグローバル展開していくとともに、さらなる快適空間・やすらぎ空間を追求し開発を継続してまいります。

*:一部の部位・部品が小振動することで発する不快音



ドアホールシール 軽量化(低比重化)の推移
比重 ①0.11⇒②0.08⇒③0.06(現在最軽量)



オール樹脂化で軽量化かつ意匠性向上 “ヒドンガラスランチャンネル”

当社では、自動車ドアウィンドウ回りのシール材のガラスランチャンネルに周辺部品の役割を取り込んだ“ヒドンタイプ”を新たにバリエーション展開しています。

このヒドンタイプは、ドアフレームへの保持の目的で比重の大きい硬質ゴムで構成され、かつ剛性を維持する目的で内部に金属製芯材が配置されることが一般的でしたが、結果として部品の重量が重くなっていました。

そこで当社は、通常タイプで培ってきた樹脂ガラスラン技術を生かし、基幹部分を硬質ゴムより比重の小さいTPE樹脂へと置き換えるとともに、保持部分を高硬度樹脂で構成することで内部に金属製芯材を配置することなく剛性・保持力を担保した、先進の「オール樹脂 ヒドンガラスランチャンネル」を開発しました。これにより、従来の硬質ゴム仕様と比較して約30%もの重量低減を達成しています。(*)

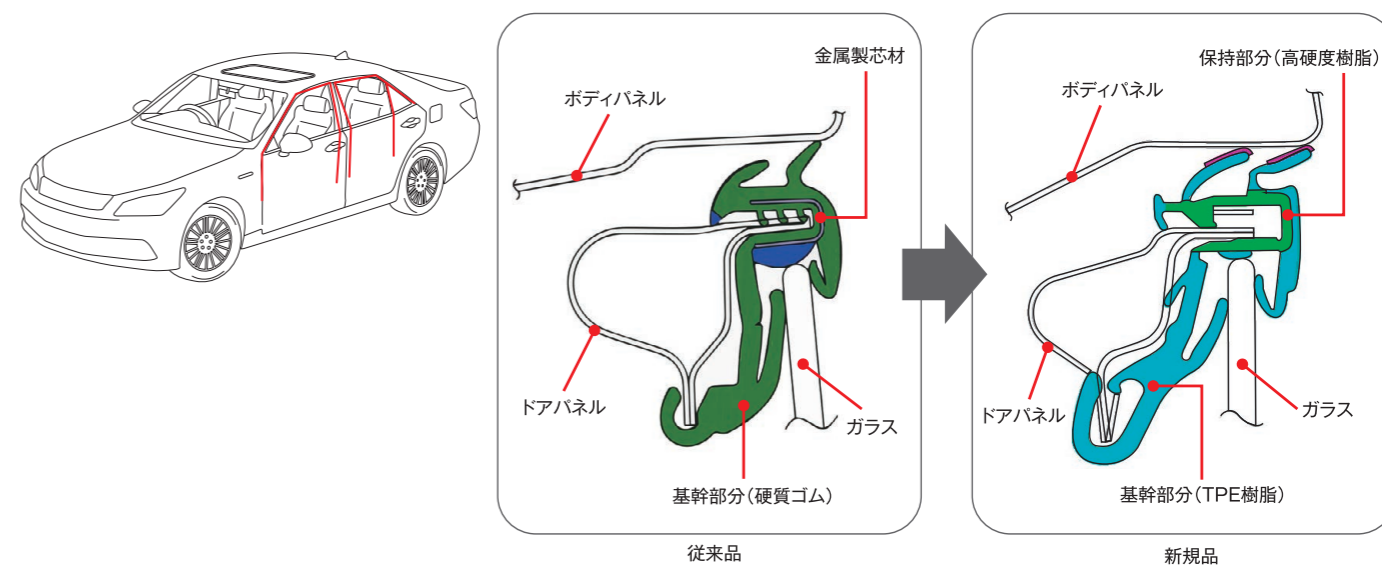
そしてもう一つ、このヒドンタイプは、車外側ウィンドウ上部に見える“モールの見え幅”を低減することができるメリットも有しています。

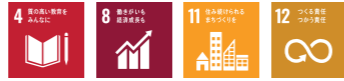
これは車両の見栄え・高級感を大きく向上させる効果につながり、車両の価値向上にも貢献できるものとらえています。当社はこのタイプを今後さらにグローバルに採用を拡大してまいります。

*:形状、長さは同じとし、単純に材料を置き換えた場合の重量計算結果



ヒドンガラスランチャンネル





地域社会との共生

国内および海外の事業所において、それぞれの地域の慣習・歴史・文化を尊重し、地域に根差したさまざまな活動を行うことで、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。



当社グループは、「社会から信頼され 良き企業市民として社会に貢献する」ことを実現するため、事業と社会貢献の両面において、それぞれの地域の慣習・歴史・文化に根差した活動を実施し、地域と共に発展を目指してまいります。

社会貢献活動理念

西川ゴムは良き企業市民として、豊かな社会の実現に貢献します。

新型コロナウイルス感染症と闘う方々への支援

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振り始めた2020年春頃、感染を防ぐための医療資材の確保が各国で課題となりました。

そこで、既存の自動車用部品製造ラインを活用した簡易防護服の製造を当社の米国子会社において開始し、各地の医療現場にお届けしました。

また、国内子会社でもこの活動を参考に、近隣の医療現場からの要望を取り入れた簡易防護服を製造し寄付いたしました。

また、新型コロナウイルス感染症と闘う医療従事者の方々への一助となればとの思いから、広島県下に所在する病院へ国内子会社で販売する栄養ドリンク(ミラクロンZII)を寄贈いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大が一日でも早く収束することを願うと共に、医療従事者の方々の負担を少しでも軽減できるよう、全グループ丸となって感染拡大防止に取り組んでまいります。

取り組み事例	地域
自動車用部品製造ラインを活用した簡易防護服の製造(2020年4月)	米国
孝感市にマスク、防護服等を寄贈(2020年7月)	中国
新型コロナウイルスワクチン接種ボランティア(2021年6月)	中国
簡易防護服の製造および感染症指定医療機関・社会福祉施設への寄付(2020年5月、6月)	日本
広島市社会福祉協議会への手作りマスクの寄付(2020年5月)	日本
広島県の医療従事者へ栄養ドリンクの寄贈(2021年2月)	日本



新型コロナウイルスワクチン接種ボランティア(中国)



簡易防護服の製造(米国)



簡易防護服の製造・寄付(日本)

地域社会への貢献

地域の清掃や行事への協賛・寄付などの身近なものから、障がいを持つ方に就労訓練を行っている社会福祉施設へ業務を委託するなど、当社グループの事業を生かした支援活動で地域社会に貢献しています。

社会福祉



広島市障害者就労支援モデル事業所として認定(日本)



社会福祉施設への軽食発注・軽加工作業の委託(日本)



献血活動(中国)



地域や寺院への食料品の配付(タイ)



裁縫技術習得のためのミシン寄付(インド)

環境保全



社屋周辺の清掃(日本)



工業団地清掃(日本)



地域清掃(インドネシア)



地域学校への植樹活動(米国)



地域学校への植樹活動(メキシコ)

公益財団法人西川記念財団の取り組み

当財団は、広島県内の親等扶養する家族のない子供たちの教育等を支援することや、広島県民の心身の健全な発達ならびに健康で活力ある生活形成に寄与することを目的に、2013年10月11日に設立されました。

現在、広島県内の大学に進学する学生を対象とした奨学金の給付(累計実績:68名)や広島県内の児童養護施設に対し、施設の子供たちが積極的に社会参加できるよう必要資金の支援を行っています。

詳細につきましては、ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/zaidan/index.html>





安全・健康な職場づくり

“社員の安全・健康はすべての事業活動に優先する”を基本行動指針に掲げ、
労使協調による働き方改革や健康経営の推進により、ダイバーシティとワークライフバランスの実現を目指します。



健康推進宣言

働く人の健康管理を経営的な視点でとらえるため、2019年に「健康推進宣言」を発表し、
「個人の豊かで活力ある生活」と「企業価値の向上」の両立を目標に掲げ、人と組織の活性化に向けた活動を促進するべく、
健康経営を推進しています。

詳細につきましては、ウェブサイトをご覧ください。
https://www.nishikawa-rbr.co.jp/csr_health_management.php

労働安全衛生の取り組み

「安全ルールブック」による 安全ルールの周知徹底

当社の安全ルールをポケットサイズの冊子にまとめ、全従業員が携帯しています。タイ語や中国語などの翻訳版も作成し、技能実習生も理解し徹底しています。



安全ルールブック(ポケットサイズ)

経営トップの現場巡視による 働きやすく安全な職場づくり

安全巡視(7月)、衛生巡視(10月)を、経営トップ参加で行い、現場現物での課題発見から改善を実施することで、災害のない、より働きやすい職場の整備を進めています。

リスクアセスメント活動の推進

生産工程に限らず、技術系間接部門の業務にも対象を拡大し、リスクアセスメントを実施し、労働災害の未然防止に力を入れています。また、毎年事例発表会を開催し、優良事例の水平展開を行っています。

■災害度数率(休業)の推移



※データは西川ゴム工業正社員および派遣社員のみ

「ストレスチェック」と職場環境改善の推進

毎年1回全社員に対し「ストレスチェック」を実施し、高ストレス社員に対し産業医やその他社外専門機関での面接を行うことでストレス低減を行っています。また集団集計結果から、職場環境の改善活動を行い、より働きやすい職場の実現を目指しています。

フォークリフト乗務員への安全教育

運搬時の労働災害防止のため、フォークリフト乗務員への安全教育を実施しています。

歩車分離の推進による歩行者の安全確保

車両、フォークリフトによる接触事故防止のため、構内の歩車分離を進めています。

働きやすい環境の実現に向けて

当社ではこれまで労使協調のもと、社員にとってより働きやすい環境づくりを労働組合と協議しながら取り組んできました。
フレックス制度はすでに30年以上前から制度化し、その後時代の変化とともにコアタイムの見直しや、育児や介護のため、時短勤務をする方々も利用可能としています。
また当社における働き方の選択肢を増やすことを目的に「ウェルカムバック制度」や「在宅勤務制度」も新たに導入しました。

項目	取り組み内容
フレックス制度	本社だけでなく、工場や営業所の全スタッフ社員(時短勤務者含む)が利用可能
ウェルカムバック制度	育児や介護、配偶者の転勤等を理由に退職する場合、一定の条件を満たせば再就職が可能
在宅勤務制度	自然災害発生時等で会社から在宅勤務を指示されている場合や育児・介護中の社員が利用可能

ワークライフバランスの実現

当社ではワークライフバランスの実現に向けて、さまざまな対応を実施しています。

01

PC自動シャットダウン

以前は20時だったシャットダウン時刻を、2020年度より19時に変更しました。

02

週末定時退社日

毎週末日を定時退社日とし、この日は18時にPCがシャットダウンされます。

03

誕生日休暇

月末月初等の繁忙期が誕生日で休暇が取りにくい人のために、同月内での振替も可能にしています。

04

最低有給休暇取得日数の設定

労使で協定を結び、管理職も含めて年間8日の最低取得日数を遵守しています。

05

充実した両立支援制度

配偶者が出産をする際に特別休暇2日を付与したり、育児短時間勤務を小学4年生始期までとし、看護休暇も年10日付与するなど法令以上の制度を設けています。

データでみる西川ゴム工業での働き方

● 離職率(定年退職除く)

2.0%

● 平均勤続年数

20.4年

● UIターン比率

50%

※データは西川ゴム工業単体(2021年3月末時点)





公正な事業慣行

国内外の法令・社会規範および社内ルールを遵守し、高い倫理観に基づき、常に公正・公平な事業活動を行うことで、会社はもとより、社員一人ひとりが、社会から信用される企業市民を目指します。



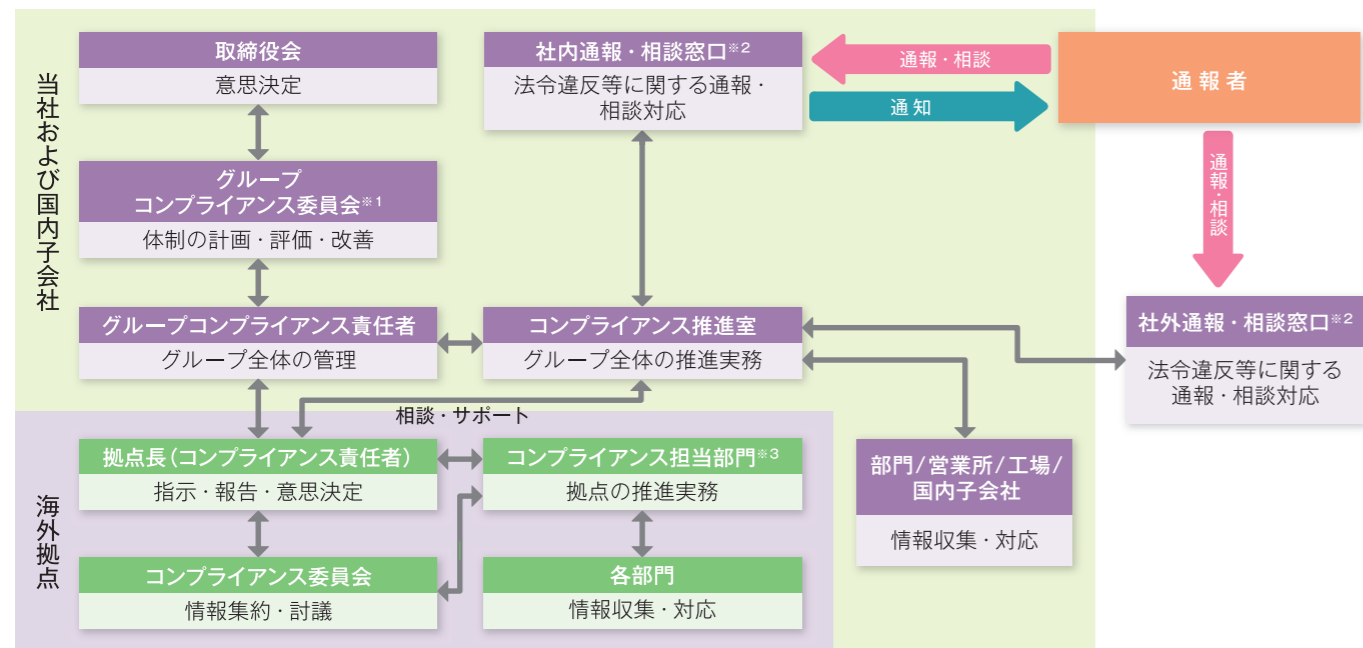
コンプライアンス

西川ゴムグループにおけるコンプライアンスとは、社にある「正道」および基本行動指針に則り、法令および社内の諸規定を遵守し、社会から信頼される企業市民を目指すことでありと広くとらえています。

これに基づき、入社時や管理職昇格時等の階層別教育はもちろんのこと、毎年9月をコンプライアンス推進月間と位置づけ、コンプライアンス意識の維持向上に努めてまいりました。特に競争法・独占禁止法違反や贈収賄を防止するための活動に積極的に取り組んでおり、継続的な監視を実施しています。

グローバル・コンプライアンス推進体制

グローバル・コンプライアンス管理体制の強化を図るため、以下の体制を組織しコンプライアンスに係る活動を推進しています。活動は当社単体としてではなく、西川ゴムグループ全体として取り組んでいます。



※1 委員長はグループコンプライアンス責任者が務める
 ※2 国内外問わず、グループ全社の通報・相談を受け付ける
 ※3 海外拠点における社内通報・相談窓口に関係する業務についても所管する

コンプライアンスハンドブックの配付

コンプライアンス遵守のための意識向上を目的として、国内外の役員・社員は、日常業務を遂行する中で遵守すべき行動規範を定めた「コンプライアンスハンドブック」および「コンプライアンスカード」を携帯しています。

内部通報体制

コンプライアンス推進活動の一環として、組織的または個人による不正・違反・反倫理的行為について、その事実を速やかに認識し解決するため、社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設置しています。

コンプライアンス事案の処理に関与した者には守秘義務が課され、通報・相談を行ったことを理由とした不利益な取り扱いを受けられないよう十分な注意が払われます。

コンプライアンス研修

コンプライアンス推進月間に実施する役員と部門長以上を対象とした集合研修を皮切りに、毎年、当社グループ社員全員に対し、それぞれのコンプライアンスリスクに合わせた研修を実施しています。集合研修およびコンプライアンスリスクが高い職務に従事している社員への教育は、その時々々のコンプライアンスに対する社会情勢を鑑みた内容となっており、2020年度は、リモートワークに関わるリスクや贈収賄規制、独占禁止法・競争法リスクに関する近時の動向を共有し、コンプライアンスの重要性を周知徹底しました。

また、西川ゴムグループとして共有すべき法規制等をテーマに研修会を開催しています。2020年度は下請法や環境関係の法律、また、サイバーセキュリティ対策について研修を行いました。

競争法遵守の取り組み

西川ゴムグループでは、競争法を遵守するために、「お客様、競合他社、および取引先と公正かつ合法的な関係を維持し、公正かつ透明な事業活動を行う」「全ての取引において、市場における自由競争を尊重し、カルテル等の競争制限的なことを一切行わない」「カルテル等を疑われること自体が問題であることを十分に認識して行動する」という行動指針に基づき、行動しています。

グループ内の自主点検

コンプライアンス体制が整備されているか、また定着しているかを確認し、必要に応じて改善を促すため、毎年国内外の拠点を対象としたモニタリングを実施しています。通常、モニタリングは監査担当部門が対象拠点へ赴く形で実施しており、各拠点からの報告だけでは発見できないリスクを見逃さないように努めています。

2020年度は当社タイ拠点を対象に、主に法令違反や社内規定違反が無いかという観点でモニタリングを実施しましたが、重大な不備はありませんでした。

社会から信用される企業市民を目指し、引き続き内部統制を強化してまいります。

サプライチェーンマネジメント

パートナーシップ構築宣言

サプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様と連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築するため、「パートナーシップ構築宣言」を公表し取り組みを進めています。

詳細につきましては、ウェブサイトをご覧ください。
https://www.nishikawa-rbr.co.jp/news/items/20210922_news.pdf





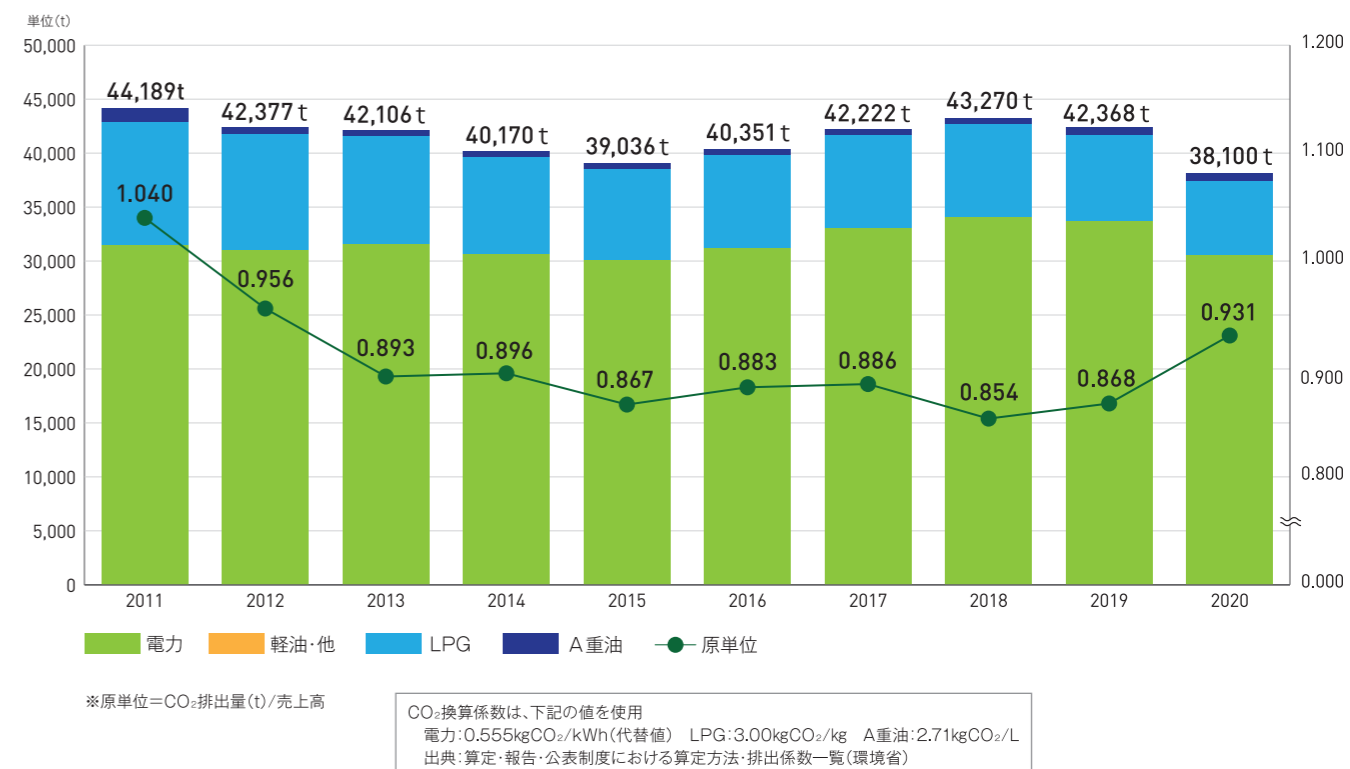
DATA

— 環境データ —

環境データ

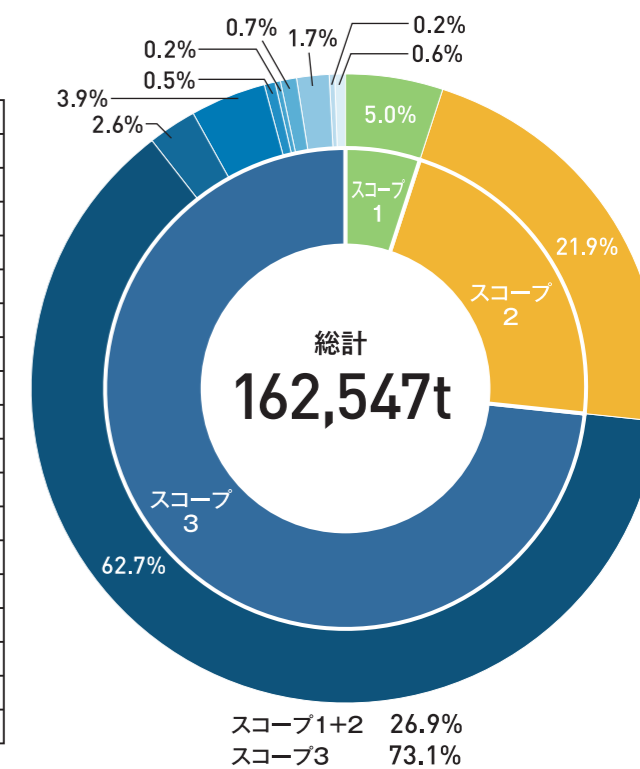
CO₂排出量(国内)

■CO₂排出量およびCO₂原単位推移(単体)



■スコープ別CO₂排出量(単体+国内関係会社)

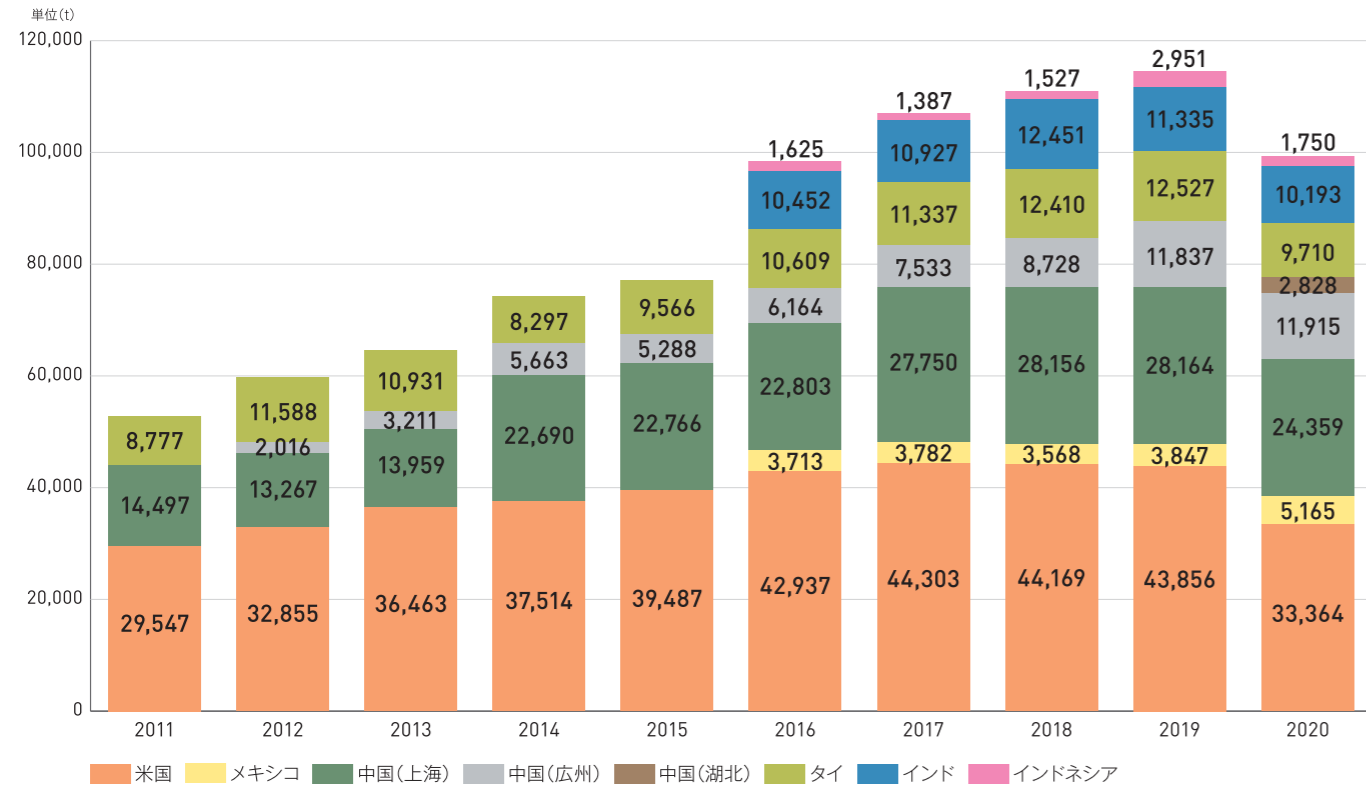
項目	CO ₂ (t)	割合
スコープ1 事業者自らの直接排出	8,066	5.0%
スコープ2 他社からの供給分(間接排出)	35,590	21.9%
スコープ3		
カテゴリ1 購入した製品・サービス	101,951	62.7%
カテゴリ2 資本財	0	0.0%
カテゴリ3 エネルギー関連活動	4,294	2.6%
カテゴリ4 輸送、配送(上流)	6,402	3.9%
カテゴリ5 事業から出る廃棄物	763	0.5%
カテゴリ6 出張	337	0.2%
カテゴリ7 雇用者の通勤	1,127	0.7%
カテゴリ8 リース資産(上流)	0	0.0%
カテゴリ9 輸送、配送(下流)	0	0.0%
カテゴリ10 販売した製品の加工	2,703	1.7%
カテゴリ11 販売した製品の使用	0	0.0%
カテゴリ12 販売した製品の廃棄	263	0.2%
カテゴリ13 リース(下流)	0	0.0%
カテゴリ14 フランチャイズ	0	0.0%
カテゴリ15 投資	1,051	0.6%
スコープ1+2+3 総計	162,547	100%



環境データ

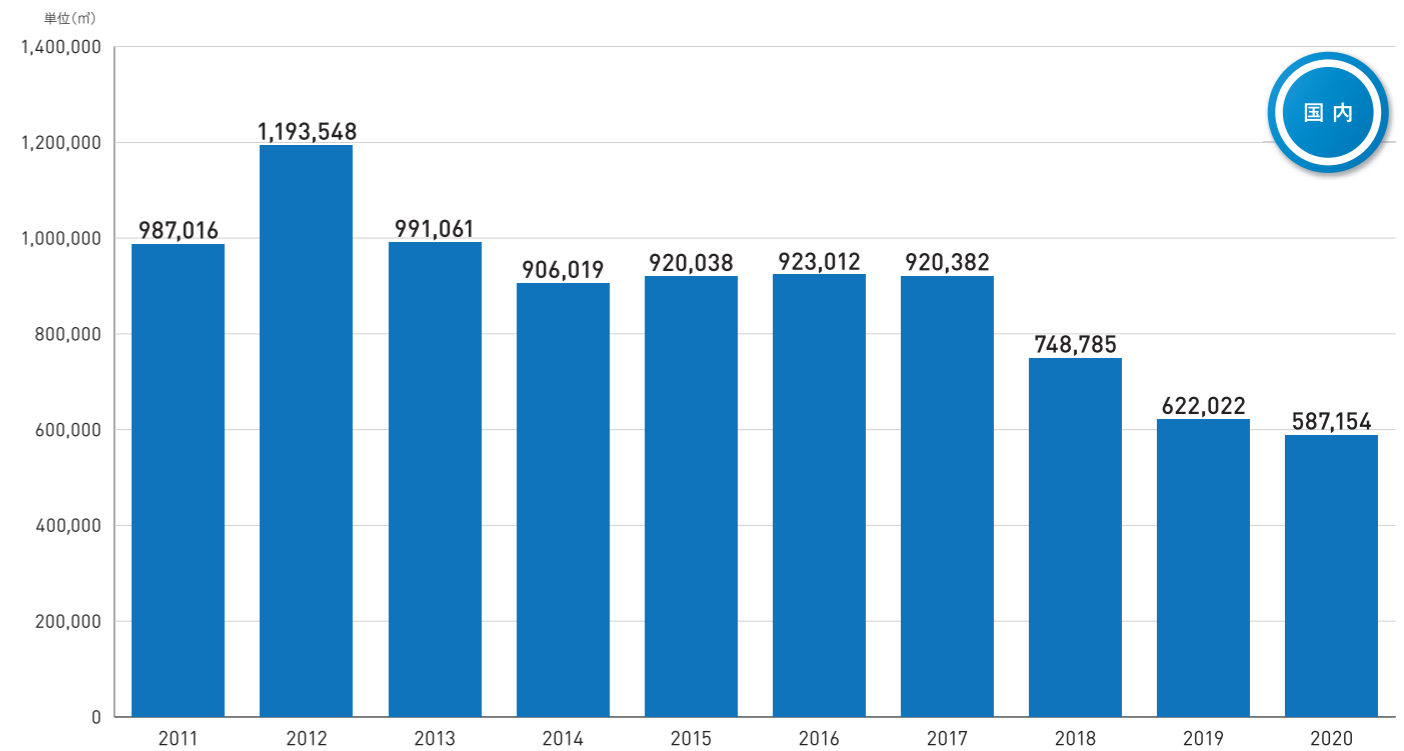
CO₂排出量(海外)

■CO₂排出量(海外関係会社)



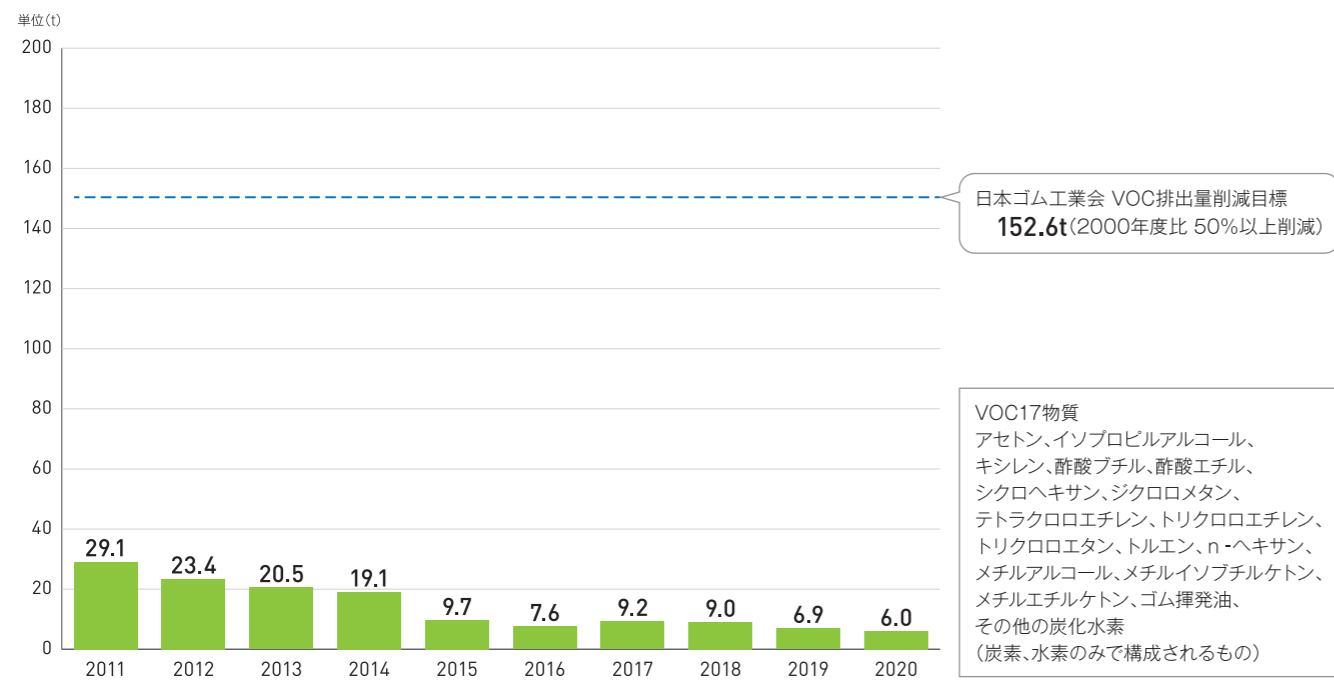
水使用量

■水使用量の推移(単体+国内関係会社)

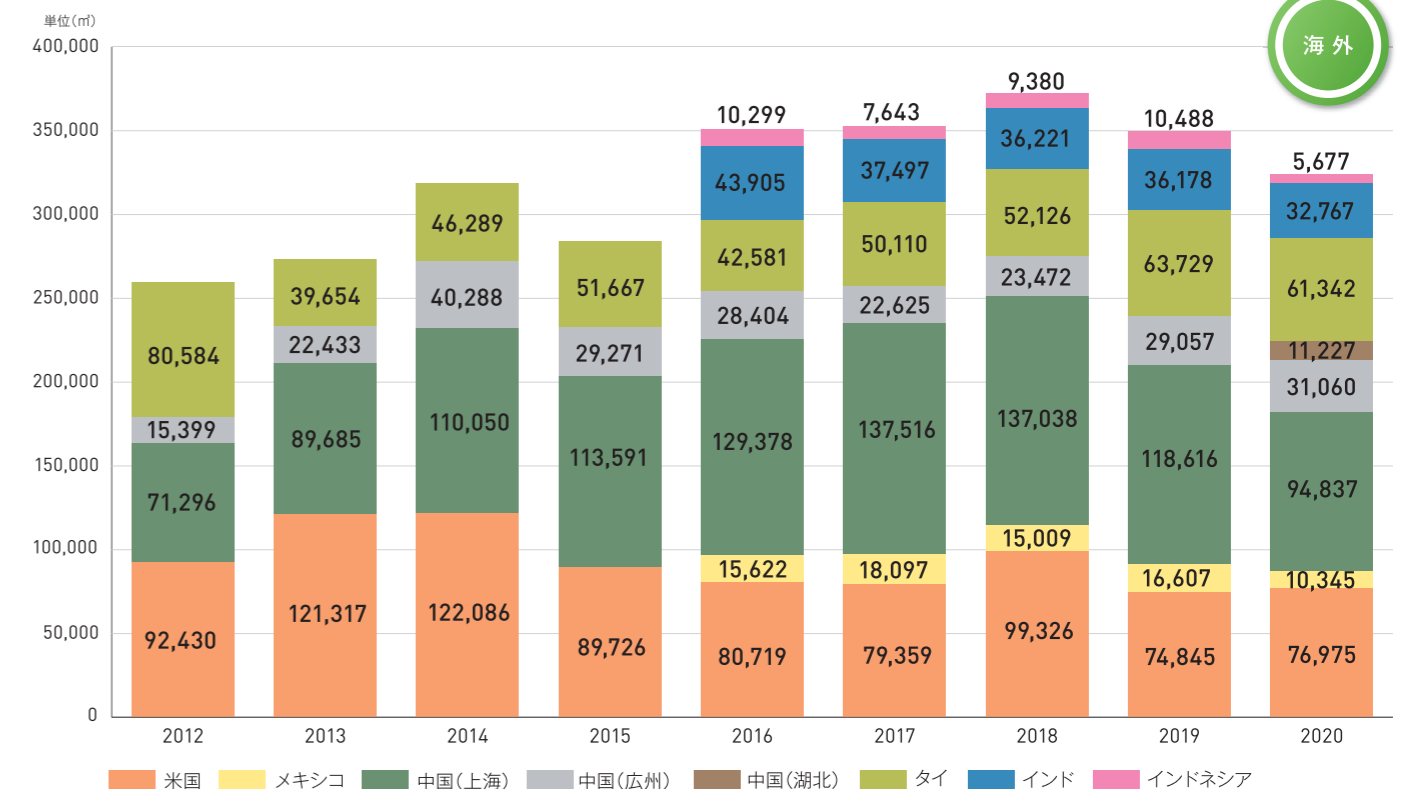


環境負荷物質管理

■揮発性有機化合物(VOC)排出量推移(単体)



■水使用量の推移(海外関係会社)



環境データ

環境コンプライアンス

■緊急事態対応訓練

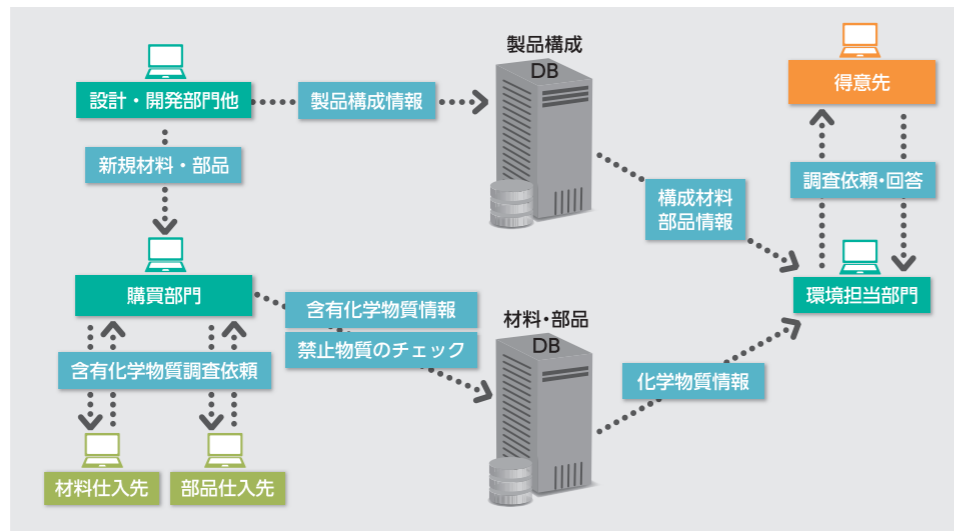
当社では、環境影響に対する緊急事態を想定した訓練を各拠点で実施しています。右の写真は、工場での重油が漏洩した場合を想定した訓練の一例です。



■環境負荷物質管理システムの構築

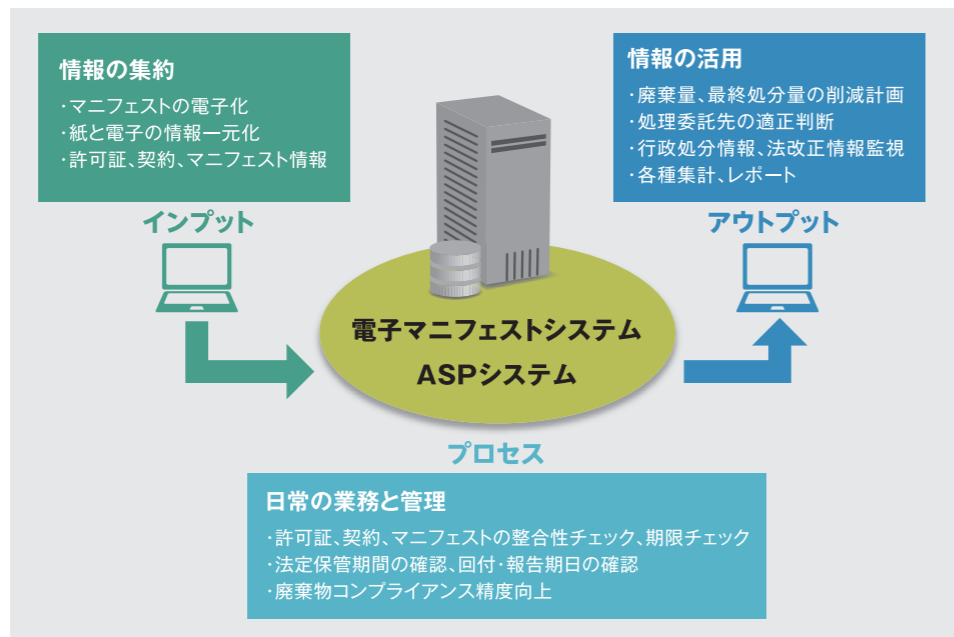
欧州のELV指令^{※1}、RoHS指令^{※2}、REACH規則^{※3}、法規制やお客様からの要求を踏まえ、当社では使用を規制する環境負荷物質(SOC^{※4})リスト(NSE0001:環境負荷物質の管理規定)を制定し、右記のような体制を構築して、SOCの管理・低減をグローバルで取り組んでいます。

- ※1 ELV(End of Life Vehicles)指令
- ※2 RoHS(Restriction of Hazardous Substances)指令
- ※3 REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)規則
- ※4 SOC(Substances Of Concern)



■産業廃棄物管理電子システムの導入

現在、国内各関係会社へ導入している産業廃棄物処理状況の一元管理を目的とした「電子マニフェスト」システムを活用し、各種の廃棄物処分にかかわるコンプライアンス違反のリスク低減と、業務コストの改善を継続推進しています。

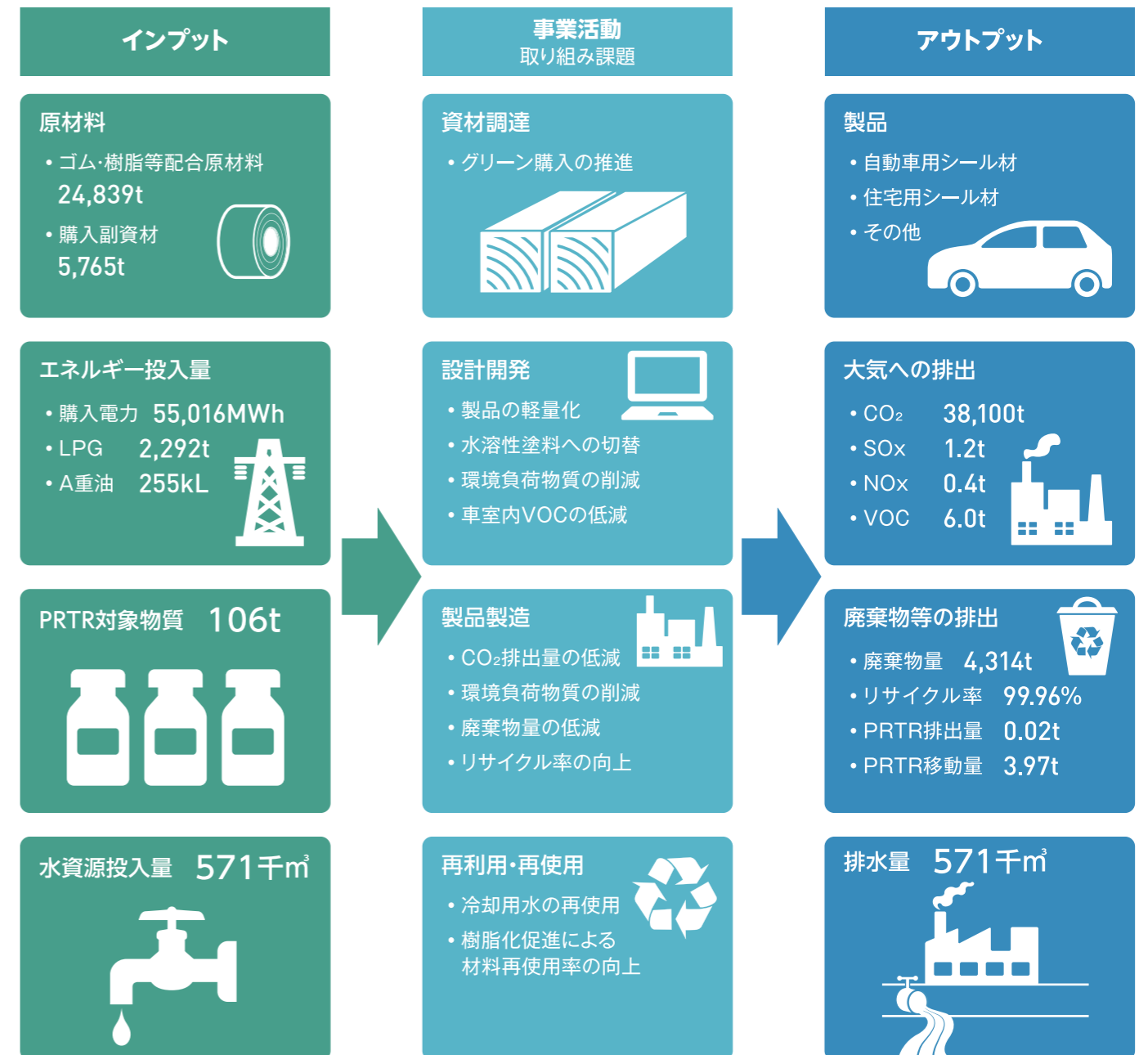


■ポリ塩化ビフェニル(PCB)含有機器の管理(特別管理産業廃棄物)

2020年度末で九州・中四国地域を対象に「安定器」を含む「高濃度」含有機器類の法定処分が完了しました。当社の「受電設備」を中心とした電気機器類についても、「低濃度」分を含め処分を完了しています。

また2020年度以降に国から追加調査の指示がありました「非自家用電気工作物」に使用されるコンデンサー類のPCBについて調査・分析を進めております。含有判明の際にはすみやかに適正に処分いたします。

2020年度の環境パフォーマンスまとめ(単体)



■算出方法等

項目	算出方法
インプット	原材料: 購入した原材料・配合薬品類の量
	エネルギー投入量: 工場・事業所における、電力、油、ガスの消費量
	PRTR対象物質: 工場・事業所における、PRTR法の対象とされる化学物質
アウトプット	大気への排出: CO ₂ : 工場・事業所における、エネルギー消費にともなうCO ₂ 排出量(エネルギー消費量×CO ₂ 換算係数) NOx、SOx: 工場・事業所の排気口(ボイラー等)から排出される、排ガス中の物質濃度を測定した結果に基づき算出
	廃棄物等の排出: 対象の年度に、工場・事業所において、埋立処分、単純焼却、リサイクルとして搬出された産業廃棄物の量
	排水量: 水資源投入量と同じ値(蒸発量は測定できないため、考慮していません)

■西川ゴム工業の情報開示ツールについて

決算関連資料

https://www.nishikawa-rbr.co.jp/ir_financial_statements.php

有価証券報告書

https://www.nishikawa-rbr.co.jp/ir_securities_report.php

発行：西川ゴム工業株式会社

お問い合わせ先：経営企画部

〒733-8510

広島県広島市西区三篠町二丁目2番8号

TEL:082-237-9371 FAX:082-237-9361

<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/>



発行年月:2021年12月